

第2回医学用原子分子・原子核データ ワーキンググループ会合議事録

1. 日 時 昭和 58 年 6 月 22 日
2. 場 所 日本原子力研究所本部第 6 会議室
3. 出席者 尾内能夫, 喜多尾憲助, 高田信久, 白貝彰宏, 平岡 武,
中井洋太, 沼宮内弼雄, 加藤 朗(電総研), 星野一雄(放医研)
- (欠席者: 伊藤 彬, 岩波 茂, 高橋 亘, 龍福 廣)

4. 配布資料

- (1) 第 6 回会合議事録(案)
- (2) 「 γ 線照射線量標準の設定」(加藤 朗)
- (3) 「医学用線量標準の現状」(星野一雄, 川島勝弘, 平岡 武)

5. 議 事

- (1) 前回議事録の確認

第 6 回本会合の議事録が原案通り承認された。

- (2) γ 線照射線量標準の設定(電総研 加藤 朗氏)

配布資料(2)にもとづいて, 照射線量の絶対測定, 特に比較的エネルギーの高い γ 線の照射線量を空洞電離箱を用いて測定する場合の補正方法について説明があった。

- 1) 電総研の標準電離箱 : グラファイト製円筒型, 62.8 cm^3 と 8.2 cm^3 の 2 種類
- 2) 平均質量阻止能比 : 基本的には Spencer-Attix の式を用いる。
- 3) 一般再結合損失に対する補正 K_{sag}

$$K_{sag} = 1 + i F_i$$

(i : 電離電流, F_i : 電離箱, 印加電圧で決まる定数)

- 4) 湿度に対する補正 $1/K_h$

空洞理論を適用した計算値もあるが BIPM の補正值を使用している。

5) 平均質量阻止能比の見直し

ICRU(1979) と BIPM の数値の比較

(3) 医学用線量標準の現状(放医研, 星野一雄氏)

配布資料(3)にもとづいて, 医学用線量標準センターの設立経過と活動状況, 地区センターの設置状況, センターの業務内容, JAMP 準標準線量計の概要, 医療線量のトレーサビリティ, 医療標準の管理とトレーサビリティ及び国際相互比較の結果等について説明があった。

(4) 今後の予定の検討

これまでの検討結果をもとに, 阻止能についてのデータを取りまとめることとし, 次回にその内容を検討することとした。

(5) 次回の予定

7月25日(月) 原研本部

以上